

議 員 全 員 協 議 会

日 時	令和 6 年 10 月 21 日（月）閉会中	9時52分 開会 10時54分 閉会
場 所	相良庁舎 4 階 大会議室	
出席議員	議長 16 番 村田博英 副議長 15 番 原口康之	
	1 番 石山和生	2 番 谷口恵世 3 番 絹村智昭
	4 番 名波和昌	5 番 加藤 彰 6 番 木村正利
	7 番 松下定弘	8 番 種茂和男 9 番 濱崎一輝
	10 番 植田博巳	12 番 太田佳晴 13 番 中野康子
	14 番 大石和央	
欠席議員		
事 務 局	局長 前田明人 次長 浅井大典 書記 本杉周平	
説 明 員	一般社団法人まきのはら活性化センター理事長 榎田敏雄 一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長 加藤 智	
傍 聴		

署名 議長

開会の宣告

○議長（村田博英君）

それでは若干時間前ですが、議員全員協議会を再開いたします。

2 協議事項 （1） 一般社団法人まきのはら活性化センター理事長挨拶及び令和5年度事業報告等について

○議長（村田博英君）

本日は、一般社団法人まきのはら活性化センターより、新理事長就任の挨拶及び事業報告等の申出がありましたので、開催をいたします。

まず、新理事長に就任されました榎田理事長より挨拶をお願いいたします。

○一般社団法人まきのはら活性化センター理事長（榎田敏雄氏）

皆さんおはようございます。ご紹介をいただきました令和6年度の6月に理事会にて拝命を受けました、理事長職をお受けしました、榎田敏雄と申します。今日はこのようなお時間をいただきまして、牧之原市の市議会の皆さんに、お目通りをいただいて、お時間をいただいたことを心から感謝を申し上げます。

私もお縁があってこういうお役目をいただいたんですけれども、今日のいただいたお時間の中で事業説明、あるいは今後の方針というようなことでの話をさせていただく時間も後でございますので、まず冒頭で少し私自身の自己紹介をちょっとさせていただければというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

私は1951年に旧の榛原町、そこで生まれました。仕事は小さな。

○議長（村田博英君）

どうぞ着座して。

○一般社団法人まきのはら活性化センター理事長（榎田敏雄氏）

いやいや立ってしゃべるのが習慣になっておりまして、若い頃からよく立たされておりましたので、立ってしゃべるのは不得意ではございませんので、大丈夫です。

そんな小さな町工場を、私の先代が戦争から帰って始めまして、私は2代目で鉄工所を引き継ぎましたんですけれども、何せいたずら坊主で勉強もできない頭の悪いガキでありましたので、社長を継ぐなんてことをしたら、すぐに会社もなくなるんじゃないかとやゆされるぐらい、あまりよろしくない息子でありましたけれども、32歳のときにいろんな会社の中の業務が自分の肩にかかって、そこから動き始めたというのが正直なところであります。

結婚をしたのは22歳で結婚させてもらったんですけれども、早く結婚したのは、早く所帯を持たせないとこいつ何するか分からんというような先代の心配の種でありまして、22歳で結婚させてもらって、その後、家庭を持てば誰もそうですけど、家族を守る、家庭を大事にする、会社を守るという意識も強くなってきて、そこから少しずつ前を向いて生きるようになってきましたけれども、何せ先代が起こした会社が、私が中学2年生のときに、下請をやっていたので、親会社である住吉ディーゼルさんという大きな会社がありま

したけど、そこが労働紛争が起きて、赤旗がいっぱいついてしまって、一夜にして倒産というようなことで、当然下請をやっていた我が社も倒産の危機にさらされるという状況がありました。しかし、戦争から帰ったような頑固な人ですから、人様に迷惑をかけるわけにいかんというようなことで、何とか会社の存続をしてくれました。我々も家もなくならずに、非常に子供の頃は厳しい生活というか、貧乏な暮らしをした記憶はあります。

私も家に農業がありましたので、お茶刈りをやったり田植をしたりと、子供の頃の記憶はそういうことがあります。なかなか周りで見ていると、2代目のボンボンでろくなやつじゃないというふうに思われる方も多いかもしれませんが、自分では仕事を始めて、会社で、動き始めてからは、新しいものづくりということで、お客様の声を形にするものづくりというコンセプトで、北海道から九州、沖縄まで、非常に小さな業界ではありますけど、特殊な機械を作らせていただいて、日本の国内では何とかえのきだというブランドの機械を知らない人はないというぐらいになって、今は当たり前ですけど、次の夢としては、世界中どこへ行っても日本のえのきだって知っているよって言われるようになりたいなというぐらいに思ってしてきましたけれども、何せ年取ってきましたので、こういう夢は次に託して、私はこういうお役目を、前職商工会長もやらせていただきましたけれども、こういう地域のことに、何とか今までの経験を生かして、皆さんのお役に立てるようなことがということで言われましたので、私も自分の会社のことだけ、自分のことだけではないなというふうに思って、地元のことに目を向けて、皆さんとともにというふうなつもりで動き始めております。

今回もこの活性化センターというふうなところでの話をいただきまして、ご承知のように、旧観光センターということで、まちを明るく元気にするために、観光を中心とした人の交流というようなことでありましたけれども、6年前に名前が変わって、ご紹介いただいたような、まきのはら活性化センターということでございますので、そういうふうな総合的な部分で、私たちもまちの活性化、また明るく元気なところに人が集まるというふうに言われておりますので、そういうことを心がけてやっていけるようなことをしていきたいなと。ここにお集まりの市議の皆様方も多分、志同じくしてまちを元気にしたい、明るくしたいということで、今の立場になられたと思いますので、そういう意味では、今後、皆さんとも共有していける部分ってたくさんあるかというふうに思いますので、力のない私たちの会はございますけれども、皆さんと協力して、この牧之原市が明るく元気になっていけるように、少しでも力が出せたらいいなというふうに思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

取りあえず、冒頭の挨拶はこれぐらいにさせていただいて、後ほどまた今後のことについて少し触れさせていただきます。今日は本当にありがとうございます。

○議長（村田博英君）

続いて、加藤事務局長より事業報告をお願いいたします。

事務局長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

すみません、座ってご説明をさせていただきたいと思います。

本日、資料のほう、5ページにわたる資料を作成させていただきましたので、そちらをもって事業説明とさせていただきます。

まず、1の組織につきましてご説明を申し上げます。

現在、理事12名、監事1名の13名の組織として活動をさせていただいております。理事長につきましても、令和6年6月4日に、社員総会において理事に選任されまして、その後の理事会において、代表理事として就任をいただいております。社員につきましては、現在、私を除いて5名、観光振興・イベント担当として2名、ふるさと納税・物販担当で2名、総務・経理担当1名で、私入れて6名ということで、事務のほうを取り行っております。

また、理事含めて、会員の皆様が専門部会ということで2部門立ち上げておりまして、観光部会、ふるさと納税部会におきまして、事業計画の協議、課題の共有、解決策の検討等を行っております。

事業内容につきまして、ご説明を申し上げます。

まず、観光振興事業でございますが、こちらは交流人口の増加と会員事業者を中心とした経済活性を目的として、イベントの企画運営及び市外イベント等での観光宣伝、特産品等の試食販売を実施しております。

①の観光振興イベントとしまして、令和5年度の実績を申し上げます。主だったところだけ、ご説明申し上げます。

4月29日、土曜日の祝日でございます。第45回さがら草競馬大会をさがらサンビーチにおいて行いまして、来場者数約1万5,000人、参加の馬数32頭、出店者数47という状況でございました。

ちなみに令和6年につきましては、7月28日に第46回草競馬大会を開催いたしました。主来場者数につきましては、前年同様1万5,000人、参加馬数につきましては45馬に参加いただきまして、出店者数も49店ということで、特に変わった点としましては、相良高校さんですとか、交流があります山梨県の甲斐市、中央市、甲州市に物販等で物の交流という部分でご参加をいただきまして、会場の物販を含めて、賑わいを設けさせていただきました。

また、9月2日、土曜日、こちらはさがら海上花火大会でございます。こちらも来場者数約1万5,000人、出店者数100店舗ということで、この当時誘客キャンペーンをやっておりましたので、宿泊人数、そのチケットを使って宿泊いただいた人数が317名ということで、多くの観光交流に貢献できたと思っております。今年につきましても、来場者数約1万5,000人の方にお越しいただきまして、甲州市のブドウの販売等、やはりこちらも各市町にお声かけをさせていただいた中で、山梨との交流も含めて、実施をさせていただきました。

また、9月5日には榛原地区におきましてRIDE ON MAKINOHARA WELCOME打上花火を実施させていただきました。

またそれ以外にも、牧之原市としまして7月13日、また1月30日、3月15日と、事業者と連携した無料の試作の打上花火ということで、打上花火だけでも年間3回実施させていただいておるという状況でございます。

次ページをご覧くださいと思います。

また、当センターは会員事業者の協力をいただきながら、ポスター作成等もさせていただいておりまして、ネーミング等も少しインパクトがあるものを作成いただいております。

ろでございます。

②としまして、山梨県契約市町等誘客・交流訪問ということで、こちらは旧観光協会のおかげから、山梨県の甲斐市、甲州市、中央市、山梨市、昭和町を中心に、人・モノの交流促進を目的として、継続的な交流を実施させていただいております。そういった中で、山梨放送につきましても、旧観光協会時代から、ラジオ出演等させていただいている中で、引き続き、新聞への掲載、テレビ・ラジオへの出演ということで、山梨放送さんの協力をいただきながら、広報宣伝を実施しております。

そういった中、2月1日には、甲州市観光協会様が牧之原市を訪れていただいた際には、受入れのほうも当センターでさせていただいた中で交流を進めておるところでございます。

続きまして、次ページをご覧くださいと思います。

交流市町等イベント参加ということで、山梨を中心としまして、多くのお声かけをいただいている中で、お茶を中心とした物産品や海産物のPRを目的としまして、積極的にイベントの参加をさせていただいております。

そういった中では、9月9日にありますように、大井川の大花火大会ということで、近隣市町との交流もさせていただきながら、当センター会員であります事業者様の出店等をサポートさせていただいたり、観光パンフレット等の配布等をさせていただいております。

④インバウンド事業ということで、こちらにつきましては収益事業として実施しております。令和5年度につきましては、中国の政府団を中心としまして、5団にお越しいただいているところでございます。令和6年度につきましては、現段階で10団体にお越しいただいております、または予定をいただいているという現状でございます。

続きまして、RIDE ON MAKINOHARA誘客キャンペーン事業でございます。こちらは令和5年度の実績でございますが、市の観光課より受託した事業でございますが、観光振興を踏まえ、海水浴シーズン及び閑散期に多くの誘客を図る目的で受託させていただきました。その中でも、当センターとしては、情報発信及び商品券の管理並びに換金事業を受託させていただきました。

助成対象1万人ということでございましたが、ポスターの作成や掲示、チラシの配布、新聞への記事掲載、SNS等での情報発信を強化いたしまして、助成対象者1万人を達成させていただきました。

実際には、山梨を含めてですけれども、助成対象外、要は金額に達しなかった方も含めると、1万270人の方がこの制度でご参加をいただきました。使用商品券の配布枚数につきましては、助成対象でございます3万枚を配布させていただきまして、換金につきましては2万9,428枚、換金率98.1%となりました。

事業別で商品券が使用された割合でございますが、宿泊・飲食で59.6%、次いで食料品販売ということで、お土産等の販売になっております。実質こちらにつきましては、宿泊費は対象としないということでございましたので、経済効果としまして、宿泊費だけでも平均しますと1泊9,000円でございますので、9,000万円ほどの、宿泊費だけでも経済効果がありましたので、その他、お土産等の販売等で1億円を超えような経済効果があったと試算させていただいております。

続きまして(3)ふるさと納税事業でございます。こちら市役所からの委託事業で

ざいます。

こちらにつきましては、令和3年度より業務を受託させていただいておりました中で、当センターとしましては、参加事業者及び返礼品の発掘並びに情報発信を強化いたしました。令和2年度、こちらは市がやっていたときで、令和3年からが当センターの受託となりますけれども、初年度で寄附件数、寄附金額とも15%アップという中で、昨年度につきましては、寄附件数、寄附金額ともマイナスという結果でございますが、こちらは制度改正等によりまして、一番人気のイチゴ等の値上がりによりまして、また気候変動によって、イチゴの提供時期が減ってしまっているということも、当センターとしては考えているところでございます。

②としましては、令和6年度の間接報告でございます。こちらは9月末現在の報告でございますが、当センターで受けている分に関しましては、寄附件数としましては106%となっておりますが、寄附金額については96%ということでマイナスと出ておりますが、これは昨年10月から制度改正によりまして金額が値上がりしておりますが、9月に先行予約をさせていただいたということで、イチゴの影響がかなり大きくなっているということで、金額としてはマイナスということでとなっておりますが、全体としましては、今プラスの方向で進んでいるということでございます。

③令和3年度からの実績でございますが、受付サイトとしましては、当センター受託をさせていただいてから5サイト増えておりまして、現在6サイトで受付をさせていただいております。また、事業者数も90事業者増えて、今現在174事業所が参画をいただいております。また、返礼品数につきましても、現在357品増えまして918品ということで、当センター社員含めて、事業者の参加依頼、または返礼品の発掘ということに専念させていただいた結果と考えております。

(4) その他事業ということでございますが、現在今年、物販事業ということで、そこにありますように、大手企業様、また観光協会様とそういったところに、物販事業として会員の物品をお預かりして販売する、または会員事業者と一緒に参加をして、PR、販売を促進をしていると。

また、フードロス対策事業につきましては、市内の大手企業様と市内の会員となっておりますが、農家様で、例えばレタス、大根、出品できないもの、要はちょっとサイズが大きい、またサイズが小さい、そういったものを食堂で使っていただくということで、昨年トライアウトをやりまして、7月から実際に導入という形で、こちら企業の皆様からも、新鮮でおいしいお野菜をいただけるということで、評価いただき、また、事業者からも、今まで廃棄する、または家の前のところで無人販売をやるというものが、高額で買っていたので非常にありがたいというお声をいただいております。

また、静波海岸エリアの活性化ということで、現在、尾崎理事の0548プロジェクトと連携しまして、静波海岸のゴミをアートに変えるという活動で、こちらは公益財団静岡県文化財団の補助金を0548プロジェクトさんが受託をされましたので、連携しながらゴミをアートに変えるということで、10月26日に、そのお披露目会を海と山の文化市で行うということで、連携して実施させていただいております。

また、最後にあります体験事業企画ということで、こちら今、例えばサーフィンとなりますと、ウェーブプール中心に県内外から多くのお客様に来ていただいております。先

ほども言いました山梨からは、契約協定を結んでいる中で、年間500名を超える方にお越しいただいている中で、やはり集中するのは海水浴シーズンでございます。それ以外に、せっかく来ていただいたのにとということの中で、魚釣り体験をしていただく。また、釣った魚を自分でさばくという体験をするということで、会員事業者と連携をしながら、実は今日もその体験の練習会ということで実施をしていただいておりますが、今後、県内外のお客様、国内のお客様を受け入れられるような体制を構築をしていると。また、会員事業者であります和菓子体験ということで、なかなかできない練りきり体験、そういったものもメニュー化するための練習会、またそういったものも進めているというところでございます。

そういった中で、新しく理事長が榎田様になっていただいた中で、商工会と連携した取組を推進させていただいているということで、私からの報告とさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（村田博英君）

続きまして、理事長より、まきのはら活性化センターの今後の方針について、説明をお願いいたします。

○一般社団法人まきのはら活性化センター理事長（榎田敏雄氏）

ご承知のように、私もまだ就任させていただいて、日にちもあまりたっておりませんので、あまり大それたことは申し上げられませんが、現状ここにありますように、商工会との連携強化による地域活性ということで、基本が私たち地域の活性化を目的としているというふうなことでございますので、当然、商工業者の皆さん、一番多く集まっている商工会1,500社ぐらいの方たちが集っております。私たちの活性化センターは、とてもとてもそこには会員数としては及んではおりませんので、組織自体は違いますけれども、そういう商売をしている皆さんとの連携をするということで、先ほど局長からもありましたように、体験による市外からの方たちに宿泊を含めて体験旅行みたいなことで、ガストロノミーというようなことでの試みをしているところでありますけど、これもほとんど対象となる皆さんは商工会の会員さんであります。ですから、そういう人たちにもお声がけをしながら、今後のことを図っていくというふうなことでありますけれども、観光協会という前身の中から私たちも受け継いでいるわけですから、どうしても現状はそこが中心ということ、花火大会とか海水浴とか草競馬とか、その辺による集客というのを、現状では引きずりながら動いておりますけれども、現実には人と物が動くというのは、それだけではないというふうに思いますし、今回の体験ツアーみたいなことも、まさしくそういうことだろうと思いますし、また、ここには大手企業さんもおられます。そこに商業的な用事で動いてくる方たち、こういう方たちも年間を通せばすごくたくさんいらっしゃる。そういう方たちが、牧之原に行ったらこんなことが体験できたよとか、あるいはこんなことがあった、こんなおいしいものがあったと、こういうことでのそれぞれの皆さんの口コミで発信をしていただくというふうなことになっていけば、変わっていくかなというふうに思いますし、観光だけでない、ものづくりをしている皆さんもたくさんいらっしゃいます。私のところも当然そうでありまして、静岡空港を利用した海外からのお客さん、インバウンドと言われるんですけど、過去にこれは私の個人的な体験ですけども、前市長さんのときにM I J B Cというふうな形で、メイドインジャパンバイチャイナというふうな

ことを試みとしてやられて、コロナの前まであれをされました。

中国視察団を受け入れるのはいかなものかというふうなお声も確かにあったように思います。私も依頼を受けた1人としては、中国という言葉、中国人そのものにちょっと違和感があったのは事実であります。ただ、私は自分の仕事として中国にも機械をたくさん使ってもらっていますし、行き来もしておりますので、単にイメージが悪いとか嫌いだとかということだけでは、商売もそうですし、人が生きる中でいけば、あの人嫌いだから関わりを持たないというだけで世の中がうまく回るかといったら、これは回るものじゃありませんので、確かに人はそれぞれに自分と違ったところは持っていますけれども、それをお互いに受け入れながら前に進むというのがいいのかなというふうに思いますし、今世界中で起きている戦争もそうであります。そういうことをなくするためには何が必要なのか。私は全然違う角度でありますけれども、自分が学んでいる勉強がありまして、その中の大きな会の目標は日本創生であります。

日本創生ってとんでもないことを言っているみたいですがけれども、一番の基本は、自分を変える、自分が素直になって、全てのことを受け入れるということをしなさいという、その一番最初のことは、朝起き目が覚めたらさっと起きると。早く起きろじゃなくて、目が覚めた、気がついた瞬間にさっと起きるという行動を取ったら、1日の、当たり前ですが時間は非常に有効に使えるし、第六感と言われるひらめき、勘が非常に研ぎ澄まされてくると、こんなふうなことを基本な姿勢として学びをしています。

それを実践している人たちは、当たり前ですがけれども、目に見えない力によって非常に繁栄をするとか1日がスムーズに送れたという体験をいっぱい持っていらっしゃるんですけど、なかなかわかにそういうことが信用できないとか、自分が実際に体験をしないというふうなことで、前に出てこないというのが実情の状態なんですけど、全然違った例題でいくと、私の会社で今、朝ですね、朝礼をやっているんですが、その朝礼が活力朝礼という非常に大きな声で挨拶をします。そういうのが、明るく元気なところに人が集まるということで、朝一番で大きな声を出すというのは非常に気を高めます。気を高めて、一斉におじぎするわけですから、気が合わないとおじぎそろわないんですね。そういうのを毎朝、少しずつみんなでやっていくというふうなことで、明るく元気な場所ができる。そこには、当然ですがけれども、人も情報も集まってくる。イコール商売が繁栄するということで、先ほどお話しした中国の視察団の話で、私のところにもコロナ前派遣された人たちが中国人総勢で420名いました。その人たちが、やっぱり視察に来るぐらいのレベルの方たちですから、私たちがイメージしている中国人のイメージとはちょっと違う対応の仕方を皆さんされましたですけど、それでも、そういう私も特別な特徴があって、工場も大きくて何時間も研修するというような場所じゃありませんので、皆さんがついたらとにかく仕事を途中で手を止めて全員をそこに集めて、そういうものを披露しました。

とにかく見えてくださった420人の中国人の皆さんは、一堂に全員、感動してくれました。さすがに、歴史のある日本人はやるのが違うという、そんなことを言った方もありましたんですが、中国4,000年には負けておりますのでと言ったら、やっぱり日本は天皇制が敷かれて二千数百年ずっと同じような歩みをしている。だから、中国みたいに元首が変わるたびに過去を否定してしまって生きている国とは違うと。日本はすごいという非常に褒めてくれた方があって、私は非常に鼻が高かったし、日本人に生まれてよかった

たなってそのとき思いましたけど、そういう体験ができるというのは、やっぱりそういうことを受入れをしたから、そういう体験ができたことであって、それがいやいやうちみたいな小さな会社はそんなよその視察団を受け入れたってしょうがないじゃんとお断りするのは簡単ですけど、そういう体験はできなかったし、またそういう繁栄にもつながっていないんだろうというふうに思います。

これはお金をもうけるためだけのものではありませんので、そういう点では、基本的に商売というのは、会社自体が、社会の公器と言われるようなものでありますので、実際にお金もうけじゃなくて、周りの皆さんのどれだけお役に立てるかという、そんな意識で動いておりますので、そういうことも体験をさせていただくことができました。

基本的にそのときにも中国の方たちといろいろお話ししたんですけど、私の会社は30人そこそこその会社でございまして、本当に零細企業なんですけど、向こうの人たちからの質問の中で、何で日本にはこんな小さな会社がたくさんある、しかも長く続くって何だって、こういう質問をされました。私はつい、中国にはないですかといったら、中国では二、三十人の会社って平均寿命でいけば2.5年、よく持っても5年だというふうなことで、大体なくなっているというふうな言い方をされました。

それは何でかというふうに僕にも聞かれましたので、日本人は基本的に働くというのが傍を楽にすること、周りを楽にすることで自分が一生懸命動くんだ、こういう基本的な精神があって、健康で働けることは神様に感謝することだという、私たち民族はそういう心を持っているという、その言い方を生意気にも向こうの人にしたんですけど、本当に皆さん感心して、中国人のように元首が変わるたびに過去を否定してしまっ、あの当時はNHKの大河ドラマは渋沢栄一さんのやつをやっていたんですけど、あの当時、書店に行くと論語と算盤というようなことで、書店に行くと本があると。今、中国の若者に論語なんて言っても知らない人のほうが多いというようなことをちらっと言われましたんですけど、それぐらいやっぱり日本の皆さんはそういうふうなことで、外国からいろんなものが入ってくる、それを日本流にアレンジして、脈々と息づかせて、成長させていくと、すばらしい、こんなふうに言っていました。

だから、基本的に中国人でもそういう感覚を持った人たち、素直に相手のいいところを認めるというふうな感覚を持った人はいっぱいいるというふうに思えば、そういう動き方をしていくのが妥当なのかなと、交流するというのは必要なことかな、そんなふうに思っています。

会員事業者の人たちを中心としたという、これも観光、飲食、そういうことだけでないと、とどまらない、ものづくりをしている人たち、いろんな分野で商いをしている人たちとの交流を広めていきながら、この市の行政の動きに沿った中で、私は当然、牧之原市が定めた計画とか、皆さんが議会で発表されて運営されている、勸奨されているそんなもろもろのこと、事業計画たくさんあると思うんですが、そういうものが市として、行政として動いている、どうしたらうまくいくかという、そういうふうなことを手助けをするというのが、それぞれの皆さんの役目、私たちの周りにはいる市民の役目なのかなという、そんなふうに思っていますけれども、そういうことを少しでもやれたらいいかなと、こんなふうに思っています。

それから、山梨県を中心とした人・モノの交流という、これも山梨県にとどまらない、

今言ったインバウンドとして海外の方たちにも来ていただくようなことになっていけば、
どんどん広まっていくのかなと、そういうふうな思いが非常に強くあります。

私も若いときにこういうふうな気持ちを持っていたかって、若いときには本当に自分の
会社を存続させる、自分の会社を守ることだけで、本当に家庭も顧みれないような
状況のときもありましたけれども、人としてはそういうことを経験しながら、それでも何
とか形が残っている、そういうふうな現在をかいま見たら、やっぱり地域の皆さんに、地
元の皆さんのお役に立てるような動き方に変わらないといかんかなというふうに思って、
今回もこういうお役目を受けさせていただきましたけれども、周りにはいろんなことを言
う方がありますので、お役を受けると、あいつ役好きだからという人が必ずいるんですけ
れども、好きだからできるわけでもないし、また、やりたいという人がやってうまくいく
かといったら、なかなかこれも皆さんもご承知のように、いかないことが多いということ
もあると思います。

だから、生き方としたら、やっぱりそういうのが基本になって、頼まれ事は試され事と
いうようなこと、いろんな場面で私もさせていただいて、ただ、お受けしてやる以上は、
何かしら皆さんに元気を持っていただけるようなこと、商工会のときもそうですけど、あ
のコロナの中で大きな派手なことは何もできなかったんですけど、基本的には貯蓄共済と
いう全国組織でやる3か月間の競争期間というんですか、あって、全国一位になりました。
商工会としては、牧之原市が全国一位になったよと、明るいニュースだよと、発信しまし
ょうということもさせていただきましたけど、そういう何かしらやっぱり皆さんが喜んで
いただけるようなこと、また誇れるようなことに進んでいけたらいいかなという、そんな
思いが非常に強くあります。

今日はこんな機会をいただきまして、それぞれの市民の皆さんともまた、個別な交流も
深まっていけばありがたいかなというふうに思いますし、皆さんが志したまちをよくして
いく、元気にしていくというふうなことに、どこで焦点が合わせられるか、また、合って
前に進んでいけるかという、そんなふうなことも、私も今後楽しみにしながら進めていき
たいなというふうに思いますので、今後ともぜひよろしくお願いをいたします。本日はあ
りがとうございました。

○議長（村田博英君）

事業報告及びまきのはら活性化センターの理事長の今後の心構えといえますか、方針に
ついてお聞きをいたしました。

せっかくの機会でございますので、お聞きしておきたいことなどございましたら、ぜひ
お願いしたいと思います。

中野議員。

○13番（中野康子君）

榎田会長の熱い思いを聞かせていただきました。活性化センターが大分変わっていくだ
ろうとちょっと期待をいたしました。

その中でちょっと聞かせていただきたいことが3点あります。

さがら海上花火大会のとき、駐車券が何枚出されて、何台とめられるのを想定して出さ
れているのか。とめられなくて帰られた方が大分あります。その辺はきちんとしてやって
いただきたい。それから、山梨県、長野県への誘客キャンペーンですけれども、どのよう

なことを実際はしているのか。以前、聞く話とはちょっと違っている部分があればいいかなと思って聞かせていただきたい、それが2点目。それから、インバウンド事業で先ほどMIJBCって言葉が出てきました。これ何の効果もなく、中国へ何回も行っていたことは事実ですよ。私たちもそれは議会のほうでずっと言ってきました。今回もこのインバウンド事業が、中国だけに限っているというのはどういうことかなというのと、それから日中友好関係団体ってありますけど、私、日中友好協会の副会長なんだけど、一切これ知らない。どういう団体をお願いをしているのかなというの。それから、収益に関してはどのように捉えているのか、その辺をお聞かせください。

○議長（村田博英君）

センター長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

花火大会の駐車券につきまして、このたびはすみません、不足するというか、駐車できない方がいらっしゃったということで、今回それこそ東環さんですか、環境センターさんの駐車場、民間様の企業の駐車場をお借りさせていただいて、シルバー人材センターの皆様に駐車のご委託をさせていただいたんですけれども、駐車券がない方も停めてしまったということで、すみません、おどりの方の分ということで、10台ほど不足をしてしまったということで、結果聞いております。

実際、約30台ほど駐車スペースを確保をさせていただいているんですけど、停め方等によっても、当日線を引けるわけではないものですから、すみません、多少とめるスペース等もうまくいけなかった部分ということで、反省点として、来年度は違う場所も確保しながら、また今回、山梨、甲州市からも、多くの車で利用いただいたということもありましたので、そういったのも含めて、駐車確保したいと思っております。

また、山梨の誘客キャンペーンということでございますが、行政の職員の方と一緒に邪魔をさせていただくんですけれども、例年、例えば甲州市、山梨市、中央市等、向こうの市民の方が牧之原市に宿泊いただくと、2,000円、3,000円という助成を各市町様が実施していただいているということで、例えば昭和町ですと年間通じて上限も決まっていない。例えば甲州市の場合は、海水浴場の開設期間、今年でいいますと7月14日から9月1日までで上限150名等と、各市町様と当センターで契約を結ばせていただいているんですけれども、その契約の継続の依頼、お礼、また海水浴への、ぜひお越しくださいというご挨拶とお礼に訪問させていただいているというのが、山梨のほうの誘客キャンペーンでございます。

最後にインバウンドでございます。こちらにつきましては、今、大鉄アドバンスまたは地域振興交流協会、こちらは元県の観光協会の方で、二本柳さんという方がお勤めされている方で、こちらがどちらかというと、お願いとよりも向こうから受入れのお願いが来ます。例えば、一団幾らというのも、そのとき電話で交渉させていただいて、受入れの調整、また同日の同行させていただいて、収益事業として実施をさせていただいております、こちらから特に中国に限っているわけではなくて、たまたま受けていただけませんかというお声かけをいただいているのが、主にその2団体と、日中友好協会、静岡県日中友好協会からも依頼がありますが、なかなか政府団が多いものですから、コロナの関係等で中断が多くなっておりますが、一番多いのが今、大鉄アドバンスというところで、こちらイン

バウンド準備室という室がございますので、そちらからの依頼でお受けさせていただいているというところがございます。

今後特に中国にこだわらず、今例えばサーフスタジアム、欧米からですとか、キャンペーンのほう見ていただけるとあるように、ヨーロッパ等も来ていただいているという中で、まだこちらが受託するようなものではありませんけれども、先ほど言いました釣りとか料理体験、そういった方にも体験いただけるような形で、ぜひ受入れもサーフスタジアム様等と連携できればと考えております。

私からは以上です。

○議長（村田博英君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

お聞きしました。それこそ駐車場の件は分かりましたけれども、やっている方たちが、シルバー人材センターの方たちにお問い合わせしたという、みんな人がいいものだから、知っている人を入れているのね。見ているとやっぱり。だから、そういう部分も券をしっかり持った人に限っていただかないと、こういうようなことになってしまうというふうに思いました。

それから、山梨、長野の誘客キャンペーンは、以前は駅前でビラをまくというのが一番のことだった。それで、それを半日ぐらいやって、200ぐらいしてくるというようなことをずっと聞いていたので、効果ってどうなんだろうと思ったけれども、今お話聞く中では、やっぱりちゃんとここ何年か、海水浴に限ってお金もちゃんと出していたりということをしているので、今後、さらに親しく山梨、長野の方たちを、お招きできるといいかなというふうに思いました。

とにかく榎田会長、ぜひよろしく牧之原市のために、さらにさらにご尽力いただきたいと心から思います。ありがとうございました。

○議長（村田博英君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

本日はお越しいただきありがとうございました。

ちょっとお伺いしたいのが、大きい方針として、私は市から負担金や委託されているものをしっかりこなしていくというのが一番のところなのかなと思いつつも、お話を聞いて、こうやってインバウンド事業、収益事業って書かれているように、独自で収益を上げていくようなことも検討しているという趣旨なのかなということも、若干お話を聞いて思ったんですけど、そちらはどういう認識なのをお伺いしたいです。

○議長（村田博英君）

加藤センター長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

石山議員のご質問にお答えをいたします。

やはり私たち、去年の理事長も話をさせていただいたように、市から頂いている負担金、こちらは草競馬も今年46回目を実行させていただきましたけれども、こういったものを市から頂いたお金を有効に活用して、市を代表するイベントになっているようなもの、そう

いったものは確実に成果を出していきたいというのがまず一点。

独自で実施しているものというものは、弊社社員の給料はやはり市から頂いているお金を中心としていただいている中で、どうしても金額的にかなり安いといった中で、自分たちで稼いで、自分たちの給料を確保していくという意識も含めて、実際まだそこに結びついておりませんが、自分たちで稼ぎながら、自分たちの手当を含めて稼ぐという今意識づけをしてさせていただいているというところでございます。

○議長（村田博英君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

そういう収益のこともしっかりやっていきたいということなんだろうと、今認識させていただきました。もしやるんだったら、やはり旅行業を取って民間の方のところに送客、要するにこうやってインバウンドもそうですけど、たくさんの人を牧之原という地に呼んでもらうという対価として手数料をもらうみたいなことがいいんじゃないかなと思うので、実際にやっていることもそういうことだなと思うので、ぜひ旅行業とか開けば、手数料を取っていけるんじゃないかなと思うので、たくさんの人を牧之原に呼んでもらうというのがお仕事になると思うので、そういったことはやる予定とか、そういう選択肢はあるんですか。

○議長（村田博英君）

加藤センター長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

旅行業法につきましても、近隣のそれこそ観光協会様を訪問させていただいて、売るものを持っていない、要は例えば人の知識であったり、物というものを持っていない現状において、どのようにして安定的に稼ぐかという中で、まずこのエリアの要は観光として売り出すにも、やはり島田市さん、藤枝市さん、焼津市さん、吉田町さん、御前崎市さんと連携して広域的に観光やってやっていかないと、特に牧之原市だけになかなか来ていただくというのは少ないものですから、そういったのも含めて、意見交換をさせていただいている中で、旅行業法につきましても、弊社社員1名、旅行業法持っただけなんですけれども、ある程度やっぱり年齢も高齢化しているところで、もう60となっておりますので、今後これを継続できるものであったり、活用の仕方については、社内で検討してまいりたいと考えております。

○議長（村田博英君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

旅行業法は半年くらい、1年くらい勉強すれば取れるものだと思うので、ぜひ検討していただけたらいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○議長（村田博英君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

先ほどから新理事長の熱い思いを聞かせていただきまして、まさに当たり前のことかな

というのは改めて私も感じました。基本的には朝起きて今日頑張るぞということの中で目標なくしては、いろんなことが結果は生まれないかなと感じている中で、一点お聞きします。

3番目のふるさと納税事業、多分来年から新しい形になると思うんですが、ここら辺について、令和5年度の実績も、先ほど3億6,000万円に対して3億5,800万円ということで、マイナス4%だと。私もかねてからずっとふるさと納税事業について、期待して一般質問をさせていただいたんですが、今年度、6年度の間報告を見ますと、多分今現在、半期1億3,875万9,000円という数字の中では、ちょっと厳しいかなと。また、市からの報告なんですが来年度新しい事業者を選定することによって、7億円という目標が設定されているわけですが、今後の引継方針について、どういう形で半年後のイメージをされているのかなということを、ちょっと事務局長のほうからお聞きさせていただきたいです。

○議長（村田博英君）

加藤センター長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

木村議員にお答えをいたします。まず、来年度のふるさと納税につきましてはどうか、当センターにつきましては、毎年受託をさせていただく、毎年契約更新をさせていただいているというような状況の中では、来年はおっしゃるとおり弊社ではないというような状況は承知はしております。そういった中で、新しい事業者様に、私たちがやっているのは、特に入らせていただいている会員様が、会員さんというか、ふるさと納税に参画いただいている事業者様は174事業所ございますので、そこにスムーズに事業を引き継げるような形で、今後、多分そういった、市が中心になると思いますけど、市から新しい業者様と顔合わせ等をさせていただきながら、ふるさと納税の事業者様の返礼品の情報であったり、事業様の情報については、必要な部分を提供させていただく形になってくると思います。

ただ、こちらに関しましては、行政のほうがやっております。私たちが受託している部分として、今年度いっぱい、3月まで昨年を上回る納税額を上げたいと考えておりますので、昨年9月がイチゴの先行予約でかなり高額になっておりますが、今年10月からイチゴの予約を開始しておりますので、10月、かなりの寄附件数、寄附金額、昨年対比しましても、増えている状況となっております。

ちなみに10月17日現在で2,800万円を超えて、昨年ですと1,300万円でございますので、プラスで今展開をしているというところでございますので、こちらは行政のほうも含めて、事業者様の、さとふる様が新しくふるさと納税をやられたりということで、昨年を上回ってくるとは思いますけど、当センターとしても、こちらに関しては最後まで事業者様のPR等をさせていただきながら、ふるさと納税の寄附を受け付けていきたいと考えております。

私からは以上です。

○議長（村田博英君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

新任早々ちょっと手厳しいお話をさせていただいたんですが、基本的に残り半年間をどういう形でと、悔いのないようにやっぱりやっていただきたいなと。3億6,000万円がそ

れ以上ということの中で、当然引継段階においては、目標値というのはこれから新理事長になって、数値管理をしていただけるかなというふうに感じていますので、去年よりもうなったよということが働いている方の、さっき理事長じゃないんですが、思いださうんですね。やっぱり減ってきたら、何だになっちゃうから、毎日、日々どういう形でという中では、数値管理、私もずっと言っているんですが、3億6,000万円を7億円にする目標は、市からもやっている中で引き継いだから端的にすぐできるかなという目標も、これはぜひ、今まで継承してきていただいたふるさと納税事業、委託事業については、きちんと受け送られるように期待しておりますので、あと半年間は、今のこの数値管理、目標値を設定して働いて移行する方々の、ぜひやりがい、よかったなという形で持っていていただくようにご努力願いたいなというのが、私からの意見です。よろしくお願いします。

○議長（村田博英君）

一般社団法人として4年ですかね、6年目ですか。一般社団法人というのは、法人格を持って、自分で飯を食っていくということで、そういう企業としての立場という動きになるかと思いますが、やはりそうはいえ、市から交付金が出ているという立場ですから、その辺りを、ぜひ今後早く脱却していただいて、新しい理事長とともに、ぜひ前向きなビジネスを捉えていってもらいたいというふうに思いますが、議会としましても、できる限りの応援をしていきたいなというふうに思っております。ぜひ頑張ってください。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

ありがとうございました。理事長の方針として、商工会との連携を強化していくという、そういったことで、非常にいいことだし、必要なことだと思います。それにはやはり、商工会さん、それと活性化センター、それと行政が、この三者がそれぞれの役割分担を明確にして、それを整理して新しいものを生み出していかないと、今までも商工会さんのほうと何か同じようなものを、観光部会のほうでやっているよという、こんなお話も聞いたことがあるんですけども、そこを整理する必要があると思うんです。その辺については、具体的の方針として、連携強化の具体的なものって、それはまだないんでしょうか。

○議長（村田博英君）

加藤センター長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター事務局長（加藤 智氏）

今のお話でございますが、私が今、商工会さんでやられています観光サービス部会、また農業地場産品部会のほうに入らせていただいております。通年通して一緒に会議等参加させていただいております。そういった中で、例えば地場産品部会ですと、夢コンテストで、要は商品の審査を商工会様のほうで、そちらの商品PRを当センターでというような形で、同じような補助金で持ったものをそういった形で分けたりとか、観光サービス部会につきましても連携させていただきながら、例えばはしご酒等もこちらで、人的に不足してればこちらが人を協力させていただくとか、物販に関しましても、そういったチケット販売等も連携をさせていただいて、こちらでも榛原地区と相良地区、両方で買えるような形というような形で、それぞれが補えるような形で今、対応させていただいていると。

今後事業につきましても、さらに連携できるような形で会議を含めて参画をして、協議

をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

センター長はある意味行政側のセンター長ですから、非常に上手にいろんなことをまとめて進めるというのは、上手だと思います。ただ、牧之原市って、ご存じのように、消滅可能性自治体ということで、名指しをされました。

それで、冒頭、理事長のお話を聞いたら、非常にご苦労されて、ご自身の会社も立派に今育て上げているということで、非常に危機の部分から軌道に乗ったということで、今まさに牧之原市って、会社で言えば存続の危機にある意味直面されているということだと思うんです。そういったことで、新しい理事長に民間から来ていただいて、行政のほうと一緒にやっているんですけれども、思い切った発想というのを一番求められていると思うんです。そういったことで、何だというくらいの、びっくりするくらいのものを、これからぜひ、今までの経験の中で特色を出して、ぜひとも打ち出していってもらいたいなと思うんですけれども、それを行政側のほうも、できること、できないこと、当然ありますけど、それを牧之原市独自の新しい魅力というのを、ぜひ創出するような、そういったものをしてもらいたいなと思うんですけど、理事長、どうでしょうか。その辺の。

○議長（村田博英君）

理事長。

○一般社団法人まきのはら活性化センター理事長（榎田敏雄氏）

ありがとうございます。おっしゃるように、個々の人が、個々の人がやっぱりそういうふうなことで、我関せずというふうにならないように、自分が変わって家庭がよくなって周りがよくなるという、地域社会を変えようというふうな意識、いやいやそれは俺がやるものじゃないとかという感覚の人が非常に多い。だから、そこをどうしたら皆さんの見方、気持ちが変わっていくか。たらいの水と同じように、割り箸1本で一生懸命、一生懸命かき回して渦を巻き起こすというような、その努力が必要だなということを痛感しておりますけれども、やっぱりコロナが終えんしたというふうなことの今、これから、おっしゃっていただいたように、本当に大胆な何かをしなきゃいけないというふうなご意見ですが、大胆なことがやれるその背景という、こういうところがやっぱり1人1人の個々の生活というんですか、そういうところで考え方がもう少し柔軟になっていかないと、他人批判はできるけれども、じゃあ自分はどうかという、ここら辺が僕、この頃話を聞かせていただいて、非常に強く思っているところで、先ほどお話ししたような、やっぱり自分を変えていくための努力をしていただくようなきっかけづくりが何かできればいいかなと。

商工会さんとの関わり合い方というのも当然ですけど、皆さんそれぞれに商売をしていますので、あそこに出てきて会議をやるたびに、全くもうからなくてしょうがないなというようなことで会を始めるようなことだけは、僕のとくに、やめてくれと。とにかく今の時代の中で我々は生きているから、今を見つめて、いいとか悪いとかじゃなくて、よくしていくための努力をどうしたらできるかと、みんなでどうしたら知恵を出せるかということ話を話し合わない、愚痴をこぼしたり、批判をし合ったりしているだけでは解決にはな

りませんと。僕は自分がものづくりをしてずっと生きてきましたので、できない理由を並べることは一切しないようにと、社員にもずっと言い続けてきたんですけど、人間ってなかなかできない理由を並べるのは楽だし、そういうことのほうが楽しいしという、他人批判のほうが面白いしという、そういうふうな人間社会かなという、そういうことを、この歳になって痛感しておりますけど、ここにいらっしゃる皆さんも、そういうところを割り箸1本じゃなくて、皆さんのお力借りながら、牧之原に住む皆さんが前を向いて明るく元気にいけるような状況をつくり出せたらいいなとつくづく思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

一昨年、我々は総務建設委員会的时候、会長時代に来ていただいて、それでいろんな話を伺って、それを基に、議会としてもかなり思い切った政策提言も出させてもらったつもりです。そういったのも行政側とも、またしっかり踏まえて、その中で、これがというものがもしあったら、議会の提言というのもしっかり踏まえて、ぜひとも実現に向けてお願いしたいなと思います。

以上です。ありがとうございました。

3 その他

○議長（村田博英君）

では、時間も来ましたので、これをもちまして、まきのはら活性化センターの今後の方針についてお伺いいたしました。ぜひ頑張ってください。

○一般社団法人まきのはら活性化センター理事長（榎田敏雄氏）

ありがとうございました。

○議長（村田博英君）

これをもちまして、議員全員協議会を終了いたします。

〔午前 10時54分 閉会〕